

**IDEC 株式会社**  
**2026 年 3 月期 第 3 四半期決算説明会 質疑応答要旨**  
(2026 年 2 月 6 日開催)

**Q. 3Q、4Q の受注状況について。**

- A. 各エリア回復傾向。EMEA も徐々に需要が回復してきており、今後一定の回復が見られる。原材料の高騰が若干見られることから、需給の状況が少し変化してきており、今後の受注動向に影響を与える可能性がある。

**Q. 在庫状況について。**

- A. 在庫が適正水準より若干多いため、適正化のために供給調整を計画的に行う必要がある。ただ、大幅な稼働調整を行う予定はない。

**Q. 通期計画を据え置いているが、下期にリスクを予想してるのか。**

- A. 計画を上回る水準で推移しており、特定のリスク要因を想定しているわけではない。まずは通期計画を達成していく。

**Q. 前期に大きな設備投資を行っているが、今後減価償却費はどの程度増えるか。**

- A. 米国拠点を統合し、現在新拠点を設立中のため、稼働すれば徐々に償却費は増えていく見込み。また日本で ERP 導入を進めており、来年度下期から稼働を予定していることから、来期数億円の減価償却費が発生すると想定している。

**Q. 原材料価格の高騰の影響について。**

- A. 半導体や金属など原材料の値上げが想定されるため、来期業績に織り込みながらコスト削減を進めるとともに、販売価格の見直しも計画的に実施することでコストを吸収していく。

**Q. 関税と為替の業績への影響。**

- A. 関税の影響は製品価格の値上げにより吸収できている。  
為替は、昨年度に対してユーロが円安、ドルが円高のため、結果として大きな変動にはなっていない。

**Q. 来期は売上の伸びに連動して販売管理費も上昇するのか。**

- A. インフレの影響や、原材料、人件費の増加については、一定程度あると想定している。

**Q. 米国新拠点の状況。**

- A. 新本社は 2026 年 2 月末に工場と物流センターが完成し、4 月に本社オフィスが完成予定。

**Q. 北米事業拡大に向けた進捗状況。**

A. 今期、米国関税や為替の影響を除いても事業計画を達成する見込み。来期も、北米は他の地域と比べて比較的アグレッシブな計画を想定している。国内生産増加の追い風に加え、AI、ヒューマノイドロボットなど、IDECが貢献できる分野の伸びしろがあることから、堅調に来期も推移すると見込む。

**Q. ヒューマノイド向けの需要状況。**

A. 安全・安心を軸として貢献していくために、顧客ニーズをしっかりと把握し、オペレーターの安全を確保する提案をしていく。

**Q. AI 向け需要の業績への貢献と、今後の需要動向について。**

A. AI 関連の需要として、空調システムやクーリングシステムなどの周辺設備向けが多く、リレーや PLC などの売上に貢献している。来期も AI 関連需要は注力分野の一つのため、業績に一定程度、貢献する見込み。

**Q. 今期業績が上振れた場合の増配の可能性について。**

A. 年初計画の 130 円を配当させていただくことが、現時点の方針と考えている。

以上